

いぶりの農業

胆振の概況 2025

- 胆振は道央の農業地帯に位置しており、東部の勇払平野や西部の河川流域の台地を中心に、冬は温暖、夏は冷涼な気候を活かして、「北海道で穫れて胆振で穫れない農産物はない」と言っても過言でないほどバラエティに富んだ農業が営まれています。
- 白老町以東に位置する胆振東部では、水稻が中心作物であり、地域ブランド「たんとうまい」の主産地となっています。また、レタス、トマト、メロンなどの施設野菜、かぼちゃやブロッコリーなどの露地野菜、麦、大豆などの畑作物のほか、花き、ハスカップ、酪農、和牛、軽種馬の生産も盛んです。
- 登別市以西に位置する胆振西部は、温暖な気候を活かして、露地や施設野菜、高級菜豆、果樹、水稻など多種多様な農産物が生産されているほか、酪農・畜産が盛んです。
- 胆振地域では、苫東工業団地内をはじめ大規模な施設園芸の展開が見られるほか、全道の飼養羽数の2分の1を占める養鶏が特徴です。
- 安全・安心な農産物を求める消費者の期待に応えるため、環境との調和に配慮したクリーン農業や有機農業が管内各地で取り組まれています。
- 農業就業人口は3,697人(2020年農林業センサス)で、年々減少傾向にあるとともに高齢化も進んでいます。
- 食料自給率の向上や環境と調和した持続的農業の推進と潤いのある農村をつくるため、農業・農村整備を計画的に進めています。
- 農地の生産力の維持向上のため、区画整理や暗渠排水などの土地改良を行っています。
- 農産物流通の合理化や農村生活環境の改善を図るため、農道網の整備を行っています。
- 農地や農業用施設を災害から守り、農業生産の維持と農業経営の安定を図るため、地すべり防止施設や海岸保全施設などの整備を行っています。

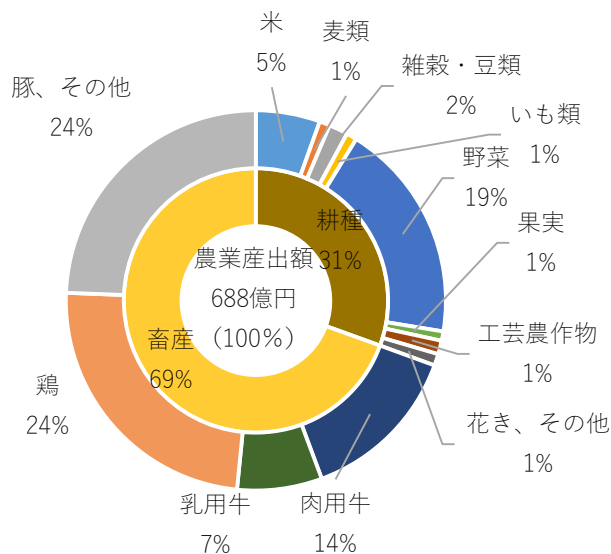
◎各市町の農業の特徴

市町名	農業の特徴
豊浦町	いちごのほか、酪農、養豚も盛んに行われています。特に、「豊浦いちご」(H19 地域団体商標)とSPF豚の産地として有名です。
洞爺湖町	地域全体でクリーン農業に積極的に取り組んでいます。キャベツやセロリなどの葉菜類、にんじん、ながいもなどの根菜類の生産が盛んで、地域ブランド「財田米」や「とうや湖和牛」(H30 地域団体商標)でブランド化を図っています。
壮瞥町	大福豆(おおふくまめ)を始めとする高級菜豆を中心とした畑作に加え、水稻やりんご・ぶどうなどの果樹、オロフレの地熱温泉水を利用したトマトの施設栽培など多様な農業が展開されています。
伊達市	冬は温暖、夏は冷涼な気候を活かして、様々な野菜が生産され「伊達野菜」としてブランド化を図っています。水稻のほか酪農も盛んです。植物工場による大規模な施設園芸も見られます。
室蘭市	生うずら卵の道内シェアが100パーセントを占めています。酪農も行われています。
登別市	酪農のほか、肉牛、養豚、養鶏が行われています。アイスクリームなどの乳製品の直売の取組も見られます。
白老町	肉用牛、養鶏の畜産が盛んです。道内で最初に導入された黒毛和牛は現在「白老牛」として商標登録されており、ブランドを確立しています。
苫小牧市	酪農や畜産を中心とした農業を展開し、養豚では「B1 とんちゃん」「樽前湧水豚」などの銘柄があります。苫東工業団地では植物工場による大規模な施設園芸も展開されています。
厚真町	胆振管内で随一の農業地帯で、水稻では高品質米「たんとうまい(胆東米)」でブランド化を図っています。麦・大豆の畑作や養豚も盛んなほか、「厚真産ハスカップ」(R6 地域団体商標)をブランド化しています。
安平町	名馬を多く送り出している馬産地です。酪農・養豚などの畜産や、水稻・野菜・畑作も盛んであり、「アサヒメロン」のブランド名で知られる高品質のメロン栽培も盛んです。有機農業も推進しており、R5に全道で初めて「オーガニックビレッジ宣言」をしました。
むかわ町	沿岸部では、水稻に加え、トマト、ブロッコリー、レタス、花きなどの園芸野菜と肉用牛を取り入れた複合経営が展開されています。内陸部は、水稻のほか、昼夜の寒暖差を利用した高品質の「ほべつメロン」(H19 地域団体商標)が生産され、かぼちゃやながいもの産地としても知られています。

◎全道農業における胆振のシェア

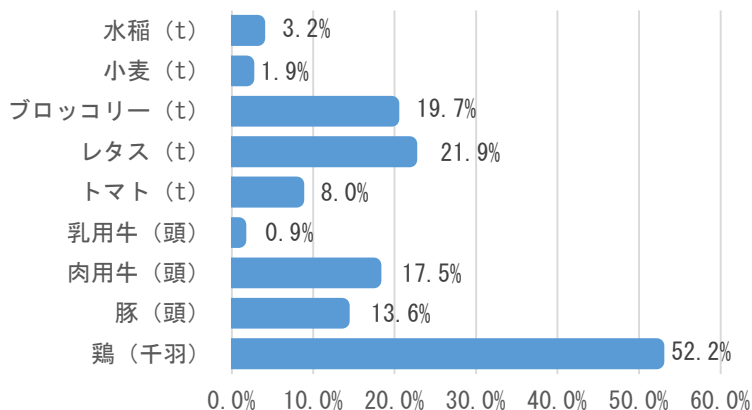
全道の農業産出額のうち、胆振の割合は概ね5%前後です。作物別収穫量等を見ると、水稻や小麦に比べ、レタスなど野菜のシェアが大きいといった特徴があります。

項目	胆振管内	全道	全道比	
農業算出額(億円)	688	13,478	5.1%	
販売農家数(世帯)	1,652	34,913	4.7%	
耕地面積	34,037	1,138,000	3.0%	
	田(ha)	8,804	220,700	4.0%
	畑(ha)	25,236	917,300	2.8%
収穫量	水稻(t)	18,200	562,400	3.2%
	小麦(t)	13,900	714,200	1.9%
	ブロッコリー(t)	4,468	22,652	19.7%
	レタス(t)	2,190	10,008	21.9%
	トマト(t)	4,121	51,197	8.0%
飼養頭数	乳用牛(頭)	7,702	830,873	0.9%
	肉用牛(頭)	17,763	101,468	17.5%
	豚(頭)	60,351	445,013	13.6%
	鶏(千羽)	5,862	11,223	52.2%



※1 農業産出額:令和5年生産農業所得統計(農林水産省)及び
 令和5年市町村別農業産出額(農林水産省)
 販売農家数:2020年農林業センサス
 耕地面積、水稻及び小麦収穫量:令和6年度作物統計
 鶏の飼養頭数:令和6年畜産統計
 それ以外は令和6年度北海道農政部調べ

作物別収穫量等の北海道内における胆振のシェア

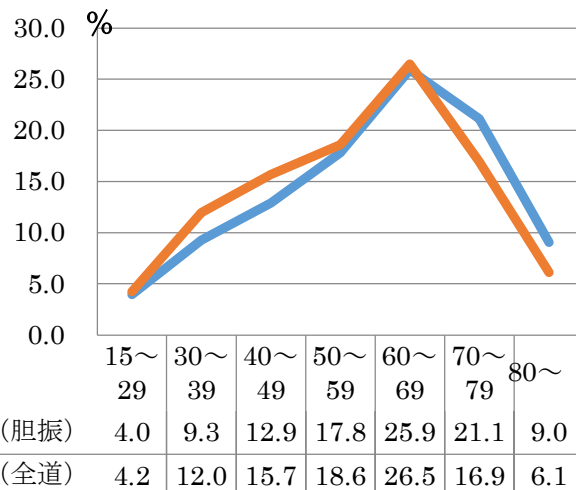


◎胆振の農業就業人口

農業就業人口を年齢構成別に見ると、全道と胆振のピークは60歳代で同じだが、70歳以上の構成率が全道平均を上回っており高齢化が進行。(2020年農林業センサス)

◎年齢別農業就業人口	年齢	胆振(人)	全道(人)	構成率(胆振)	構成率(全道)
	15~29	147	3,636	4.0	4.2
30~39	343	10,242	9.3	12.0	
40~49	475	13,423	12.9	15.7	
50~59	658	15,937	17.8	18.6	
60~69	959	22,696	25.9	26.5	
70~79	781	14,494	21.1	16.9	
80~	334	5,237	9.0	6.1	
計		3,697	85,665	100.0	100.0

農業就業人口(年齢別構成率)



◎農業農村整備事業の実施状況

令和7年度の農業農村整備事業予算は、道営事業が14地区1,713百万円（内682百万円がR6補正予算）、団体営事業が15地区412百万円の計29地区2,125百万円を執行予定です。

水田の整備は、厚真町を中心に展開しており、ほ場の大区画化とともに用排水・農道等の一体的な整備を実施し、農地の集積・担い手育成を促進しています。畑地の整備は、豊浦町、洞爺湖町、伊達市において畑地かんがい、区画整理を中心とした事業を実施しています。その他、用水路、農道の保全や農地等の保安全管理として海岸保全等を実施しています。

【道営事業の内訳】

事業区分	主な事業内容	R7予算（百万円）
農業生産基盤整備	水田・畑地の整備、用排水の整備	1,380
農村整備	農道の整備	71
農地等保安全管理	海岸保全、防災減災	262
合計		1,713

【道営農地整備事業 1区上流地区（厚真町）の事例】

※左側が事業実施前の状況。右側が実施後における大区画化された農地。大型機械による作業効率の向上や営農労力の節減を図る。

【事業実施前】



【事業実施後】



◎日本型直接支払制度（多面的機能支払（農地維持支払・資源向上支払））（愛称：とんぼの未来・北の里づくり）の実施状況

平成26年度より農業農村の持つ多面的機能の発揮に対して日本型直接支払（多面的機能支払）が創設され、集落コミュニティの共同管理等によって農地が維持され、将来にわたって多面的機能が十分に発揮されるとともに、規模拡大に取り組む担い手の負担を軽減し、構造改革を後押しします。

令和7年4月現在、管内2市6町で31の活動組織が当該制度に取り組む予定で、対象農用地は農地維持支払において、21,611haを想定しています。

☞主な実践活動

＜植栽活動＞



＜農地法面の草刈り＞



＜水路の泥上げ＞



＜水路のひび割れ補修＞



☞制度のポイント

農地維持支払は、

- ① 農業者のみの活動組織でも OK
- ② 農業生産を営むために不可欠な基礎的活動を支援

☞交付単価（単位：円/10a）

農地維持支払		資源向上支払
田	2,300	1,920
畑	1,000	480
草地	130	120

